

1 健康日本 21 について正しいのはどれか。

- a 健康寿命の延長を目指す。
- b 健やか親子 21 の別名がある。
- c 性感染症の予防を目指す。
- d 定期検診の拡充を図ることを目的とする。
- e 虐待防止を目指す。

2 写真は脳梗塞後遺症による嚥下障害で経口摂取が不可能な患者である。

この患者の処置、管理について正しいのはどれか。

- a シャワー浴は避ける。
- b 下痢対策には栄養剤の注入量を多くする。
- c 誤嚥対策には栄養剤の注入を仰臥位で行う。
- d 栄養剤注入後はお茶でカテーテル内を洗い流す。
- e 自己抜去時はカテーテル等を瘻孔に挿入し自然閉鎖を防ぐ。



写真

3 遠位尿管機能検査はどれか。

- a 尿試験紙法
- b Fishberg濃縮試験
- c イヌリンクリアランス
- d クレアチンクリアランス
- e パラアミノ馬尿酸ソーダ (PAH) クリアランス

4 体重の増減がエネルギー摂取量の増減と相関するのはどれか。

- a 2型糖尿病
- b 甲状腺機能亢進症
- c 尿崩症
- d ネフローゼ症候群
- e ヘロイン中毒

5 輸血の適応で、間違った組合せはどれか。

- a 免疫グロブリン製剤——重症感染症
- b 血小板——循環血液量維持
- c 新鮮凍結血漿——凝固障害
- d 濃厚赤血球——酸素運搬能維持
- e アルブミン製剤——低蛋白血症

6 小児の診察で正しい記載を選べ。

- a アプガースコアでは心拍数 80 回、弱い泣き声、四肢弛緩、刺激で顔をしかめる、皮膚はチアノーゼの新生児は重症仮死である。
- b 1 歳児は腎臓を触知しても正常範囲である。
- c 2 歳児は肝臓を 2 センチ触知しても正常範囲である。
- d 5 歳児は脾臓を 4 センチ触知しても正常範囲である。
- e 皮膚ツルゴールは指先を圧迫して血液の戻りの速度で確認する。

7 医師免許のほかに法的資格が必要なのはどれか。

- a 正常妊娠の人工の妊娠中絶
- b 異状死と思われる死体の検案
- c 新生物の放射線治療
- d 人工受精による不妊治療
- e 保健所長への就任

8 発熱を伴うけいれん重積状態で、静脈路確保後にまず投与するのはどれか。

- a 解熱薬
- b 抗菌薬
- c ジアゼパム
- d 副腎皮質ホルモン
- e rt-PA (組織プラスミノゲンアクチベーター)

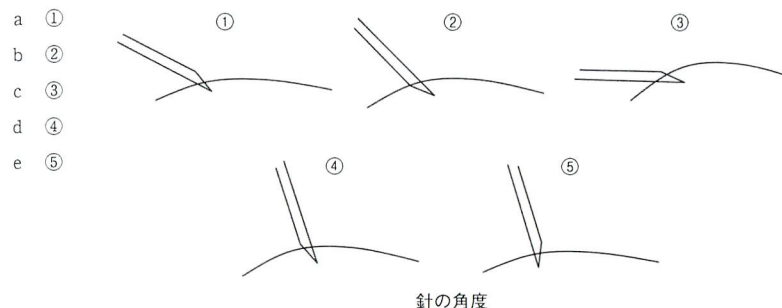
9 行動療法の対象として誤っているのはどれか。

- a 認知症
- b うつ病
- c 不安障害
- d 急性薬物中毒
- e アルコール依存症

10 死亡診断書および死体検案書について正しいのはどれか。

- a いずれも医師のみ記載することができる。
- b 生年月日不詳の場合は推定年齢を記載する。
- c 外因死の場合には必ず死体検案書を記載する。
- d 身許不明の場合には必ず死体検案書を記載する。
- e 発行は1枚のみであり追加発行の要請は拒否できる。

11 皮下にホルモン療法製剤を注射するときの針の角度として正しいのはどれか。



12 以下のうち、誤っているのはどれか。

- a すべての患者は平等な扱いを受ける。
- b 患者は自らの医療について自己決定権を有する。
- c 医師は、職業上知り得た秘密について守秘義務がある。
- d 患者医師関係はパターナリズムに基づくことが望ましい。
- e インフォームド・コンセントには不利益を含めた情報提供が必要である。

13 膨疹がみられるのはどれか。

- a 麻疹
- b 蕁麻疹
- c 貨幣状湿疹
- d 接触皮膚炎
- e 脂漏性皮膚炎

14 仮性同色表（色覚検査）の目的はどれか。

- a 確定診断
- b 程度判定
- c 職業判定
- d 視覚障害者認定
- e スクリーニング

15 一般診療において、患者本人が意思表示できない状況にあるとき、通常、患者の家族から治療の同意を得るが、「患者の家族」というとき、親、配偶者、子ども、きょうだいのうち、法律上、優先順位が高いのはどれか。

- a 親
- b 配偶者
- c 子ども
- d きょうだい
- e とくに決まりはない

16 血尿の所見はどれか。

- a ミオグロビン尿
- b ヘモグロビン尿
- c 尿沈渣にて赤血球多数
- d 尿沈渣にて白血球多数
- e 尿沈渣にて硝子円柱多数

17 72歳の女性。2～3か月前から食欲が低下し増強した。腹痛は認めなかったが1週間前から黄疸に気づき来院した。意識は清明。体温37.6℃。脈拍88/分、整。血圧140/72 mmHg。血液所見：赤血球 395万、Hb 13.5 g/dl、白血球 12,700、血小板 19万。血液生化学所見：総ビリルビン 12.3 mg/dl、直接ビリルビン 11.2 mg/dl、AST 85 IU/l、ALT 105 IU/l、ALP 564 IU/l（基準130～240）、 γ GTP 370 IU/l（基準35-75）、空腹時血糖 110 mg/dl、AMY 118 IU/l（基準40～130）。

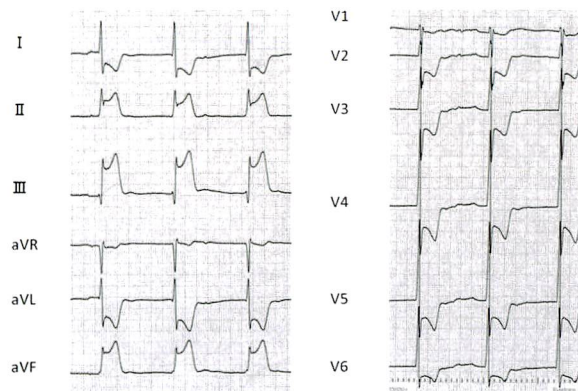
誤っているのはどれか。

- a 褐色尿が疑われる。
- b 灰白色便が疑われる。
- c CTで肝腫大が疑われる。
- d CA19-9の上昇が疑われる。
- e 腹部超音波検査で胆管拡張が疑われる。

18 64歳の男性。胸部異和感を主訴に来院した。心電図を示す。

この疾患の危険因子および介入法について正しいのはどれか。

- a 急性期の治療時期は予後に影響しない。
- b 急性期からのリハビリテーションは予後に影響しない。
- c 長期臥床は本疾患の危険因子であり、血栓溶解療法が必要である。
- d 喫煙と本疾患の関連性は未だ不明であり、禁煙指導は再発予防として不要である。
- e 高血圧は本疾患の危険因子であり、基礎疾患により再発予防のための基準値が決められている。



心電図

19 40歳の男性。基礎疾患は特になが、現在まで1日平均5本で20年間の喫煙歴がある。今回はインフルエンザ感染に引き続き、細菌性肺炎に罹患し入院した。病院の入院患者用の喫煙所から戻ってきた同室患者から禁煙パッチの話を聞き、本人はすぐに禁煙したいので入院中から保険で治療を受けたいと申し出があった。ニコチン依存症のスクリーニングテスト（TDS：Tobacco Dependence Screener）は4点であった。

この患者は、この病院で保険適応で禁煙治療が受けられないが、その理由で誤っているのはどれか。

- a 入院中は受けられない。
- b TDSが基準以下である。
- c 適応となる基礎疾患がない。
- d 施設基準を満たしていない。
- e ブリンクマン指数を満たしていない。

20 血液を8 ml採血するために、21ゲージの注射針をつけた10 mlの注射器で肘正中皮静脈を穿刺した。ブランジャを引き2 mlほど血液を採取したときに、患者は指先にしびれを訴えた。

その後の対応として適切なのはどれか。

- a 駆血帯をゆるめて針を抜き、圧迫する。
- b 穿刺部に塩酸リドカインをスプレーする。
- c 針をそのままにしてしばらく待つ。
- d 針の方向を変えて採血を行う。
- e ブランジャを押し2 mlの血液を血管内に戻す。

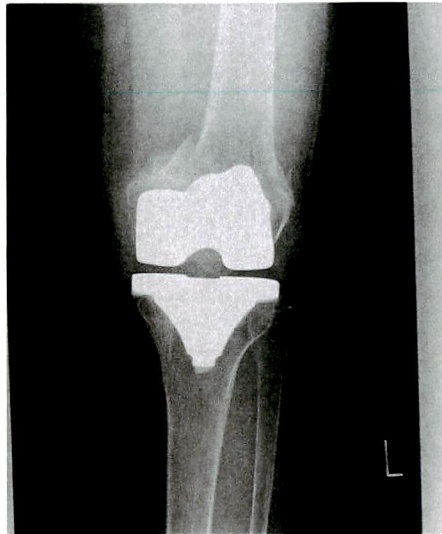
21 58歳の男性。肝硬変で経過観察中、突然の吐血を認めたため救急車で搬送された。身長170 cm、体重82 kg、体温36.5℃、意識清明であるが顔面は蒼白で眼瞼結膜に著明な貧血を認めた。脈拍は124/分、微弱、整で血圧58/38 mmHgであった。腹部は膨満しており腹水貯留が疑われた。直ちにおこなうべきことはどれか。

- a 胃洗浄
- b 気道確保
- c 腹腔穿刺
- d 鉄剤投与
- e 静脈路確保

- 22 82歳の女性。自宅の階段を踏み外して転落し、歩行が困難となったため家族に伴われて来院した。
5年前に他院で左人工膝関節全置換術を施行されている。左膝関節エックス線写真を示す。

治療として適切なものはどれか。

- a 転倒予防装具
- b 体幹ギプス装具
- c 患肢の筋力強化
- d 人工骨頭置換術
- e 観血的骨接合術



左膝関節エックス線写真

- 23 42歳の男性。飲酒量が多いため、体を壊しているのではないかと心配され、家族に連れられて来院した。自宅や外で酒を大量に飲んでいると家族は述べている。

アルコール依存症のスクリーニングとして有効でないのはどれか。

- a 「毎日、酒を飲んでいますか」
- b 「朝から飲酒することがありますか」
- c 「飲酒を減らそうと試みたことがありますか」
- d 「飲酒について罪悪感を覚えることがありますか」
- e 「飲酒について、周囲の人から非難されたことがありますか」

- 24 34歳の男性。電車内で気分不快を認めたため途中下車。プラットホームのベンチに座っていたところ意識が低下し、それに気づいた駅員が救急車を要請した。救急車収容時の意識レベルはJCS 20点、血圧66/30 mmHg、脈拍108/分で微弱、呼吸数は16回/分だった。1週間前から心窩部に不快感があり、3日前から黒色便を認めていた。

来院時現症：意識レベルJCS 0点、血圧85/41 mmHg、脈拍110/分、呼吸数16回/分、呼吸音清、酸素飽和度99% (酸素吸入なし)。四肢の冷感湿潤は著明で衣類は汗で濡れていた。
心療内科通院歴がある。

直ちに行うべき処置はどれか。

- a ステロイド吸入
- b 昇圧薬投与
- c 輸液負荷
- d ペーパーバッグ呼吸法
- e 亜硝酸剤舌下投与

- 25 78歳の女性。がんの終末期で在宅医療を利用している。3か月前に肝細胞癌で入院し、肺および骨への転移が見つかった。主な介護者である夫と本人は自宅で穏やかに過ごすことを強く希望し、1か月前に自宅へ退院した。3日前から呼吸困難、強い疼痛および不眠を訴えるようになり、「憂うつで、もう死んでしまいたい」と言うようになった。夫は妻の苦しむ姿を見ていられない。

在宅医療を担当する医師の対応として適切でないのはどれか。

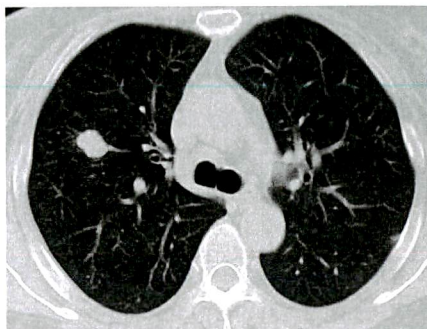
- a 本人への抗うつ薬投与
- b 本人への鎮痛薬の増量
- c 本人への再入院の説得
- d 本人への酸素吸入
- e 夫への精神的ケア

- 26 80歳の男性。在宅療養中の末期癌患者で、数日前より極めて重篤な状態となっていた（最終診察は昨日午後3時頃）。本人と家族の希望で入院はせず、そのまま引き続き自宅で診ることになった。今朝7時に家族からの連絡で直ぐ駆けつけたが、すでに瞳孔が散大しており、慎重に診察した上で死亡を宣告した。

その後が生ずる死の確実徴候はどれか。

- a 死 斑
- b 呼吸停止
- c 筋肉の弛緩
- d 腱反射消失
- e 心拍動停止

- 27 60歳の女性。上行結腸癌のため、右半結腸切除術を受けた。術後3年目に胸部異常陰影を指摘された。診断及び治療目的のため開胸術を行ない、結腸癌の肺転移であることが判明した。胸部単純CTを示す。



胸部単純CT

推定される肺への転移経路として、正しいのはどれか。

- a 上行結腸——内腸骨静脈——門 脈——下大静脈——肺
- b 上行結腸——上腸間膜静脈——肝静脈——下大静脈——肺
- c 上行結腸——内腸骨静脈——下大静脈——門 脈——肺
- d 上行結腸——下腸間膜静脈——肝静脈——下大静脈——肺
- e 上行結腸——下腸間膜静脈——下大静脈——門 脈——肺

次の文を読み、28～29の問いに答えよ。

45歳の女性。動悸を主訴に来院した。以下に初診時の医療面接の会話を示す。

医師：はじめまして。Aさんですね。私が担当のBです。よろしくお願いたします。今日は、どうされましたか。

患者：半年前から時々動悸がするようになり、このところ発作が急に多くなってきたので来ました。

医師：それは心配になりますね。どのような動悸ですか。少し詳しく教えてください。

患者：胸が急にドキドキしてきたと思ったら、どんどんひどくなるのです。もう、手足が震え、胸が締めつけられて、息苦しくなり、少し気が遠くなる感じがします。

医師：それは大変に辛い症状ですね。その後はどうですか。

患者：動けなくなるので、家族に救急車を呼んでもらい病院に運ばれたことが何度かあるのですが、病院に着く頃には何でもなくなり、病院でも異常がないと言われます。その後に精密検査をしてもらうのですが、原因が判らないと、いつも言われます。

医師：そうですね。原因が判らないと。どのようなときに動悸が生じますか。

患者：通勤中に駅や電車のなかで起きる事が多いので、今は、外出するのが不安で、ここ1か月間は仕事を休み、外出もしていません。

28 用いられているコミュニケーションスキルはどれか。

- a 共 感
- b 繰り返し
- c 閉鎖型質問
- d 中立的質問
- e 焦点を絞った質問

29 この後の医師の言葉として最も適切なのはどれか。

- a 症状があるときに来院して下さい。
- b 職場でのトラブルについて教えてください。
- c 何か強いストレスがあるのではないですか。
- d そこまで不安があると無理ありませんね。
- e 誰かあなたの症状を目撃した人はいませんか。

次の文を読み、30～31の問いに答えよ。

22歳の男性。

現病歴：17歳の頃から軽い黄疸を指摘されることがあった。数年前から、脂っこい食事をした後に右上腹部痛を自覚していた。1週間前から倦怠感、動悸を生じるようになり来院した。

家族歴：母親が貧血

現症：身長177 cm、体重65 kg。体温36.5℃。呼吸数18/分。脈拍88/分。血圧116/64。胸腹部聴診上異常なし。腹部は平坦、軟で、圧病を認めない。脾腫あり。

検査所見：血液所見：白血球7,700、赤血410万、Hb11.8 g/dl、Ht 36%、血小板22万。

血清生化学所見：総蛋白6.9 g/dl、AST 45 IU/l、ALT 35 IU/l、ALP 212 IU/l（基準115～35g）、 γ -GT 26 IU/l（基準8～50）LD 586単位（基準176～353）、尿素窒素6 mg/dl、クレアチニン0.5 mg/dl、Na 136 mEq/l、K 5.6 mEq/l、CL 98 mEq/l。

30 病態を反映する検査所見はどれか。

- a 網赤血球低値
- b 骨髓中赤芽球低値
- c ハプトグロビン増多
- d 間接ビリルビン低値
- e 尿中ウロビリノゲン高値

31 最も考えられるのはどれか。

- a 急性白血病
- b 多発性骨髓腫
- c 再生不良性貧血
- d 骨髓異形成症候群
- e 遺伝性球状赤血球症

次の文を読み、32～33の問いに答えよ。

78歳の女性。3日前から38℃台の発熱、咳嗽、黄色調の喀痰が出現し、胸痛も伴うようになったため来院した。意識清明。体温38.2℃。呼吸数20/分。脈拍96/分。血圧120/78 mmHg。打診で右下肺野に濁音を認め、聴診で右下肺野にcracklesを聴取する。血液検査：白血球数14,000、BUN 18 mg/dl、クレアチニン0.7 mg/dl、CRP 8.9 mg/dl（基準0.3未満）。胸部エックス線で右下肺野に浸潤影を認める。喀痰Gram染色では多数の白血球および菌食食像を認める。

32 起炎菌を推定するうえで有用性が低いのはどれか。

- a 薬歴
- b 飲酒歴
- c 喫煙歴
- d 家族歴
- e 渡航歴

33 この患者の重症度を最も高めるのはどれか。

- a 年齢
- b 意識レベル
- c 呼吸数
- d BUN値
- e CRP値